jtk2002017

「男女共同参画アドバイザー養成講座」の役割：受講者のエンパワーメントの視点から

—大学の生涯学習機能と地域実践—

池田政子*・藤谷 秀*・伊藤ゆかり*
吉川豊子*・酒井治子*・市川史子**

*山梨県立女子短期大学男女共同参画アドバイザー養成講座実行委員会
**山梨県教育委員会社会教育課

Keywords：男女共同参画アドバイザー養成講座、受講者のエンパワーメント、大学の生涯学習機能、地域での実践、修了者対象アンケート調査

The Role of "The Training Course for Advisors for Gender Equality" Seen from the Viewpoint of the Empowerment of its Participants: Research on the Function of Lifelong Learning Program of the College and the Practice in the Local Community

Masako IKEDA*, Shu FUJITANI*, Yukari ITO*,
Toyoko YOSHIKAWA*, Haruko SAKAI*, Fumiko ICHIKAWA**

*The Executive Committee for the Training Course for Advisors for Gender Equality, Yamanashi Women's Junior College
**Social Education Division, The Board of Education of Yamanashi Prefecture

keywords : the Training Course for Advisors for Gender Equality, empowerment of the participants, function of lifelong learning program of the college, practice in the local community, survey of the participants who completed the course

ABSTRACT: Since 1996, the Board of Education of Yamanashi has offered the Training Course for Advisors for Gender Equality, supported by the Ministry of Education and Science. The Course has been planned and carried out by the colleges: during the first two years by Yamanashi Gakuin University, and since 1998 by Yamanashi Women's Junior College.

We made a survey on the participants who had completed the Course and become certified as Advisors for Gender Equality. The questions asked were their activities before and after taking the Course, their motive for participation, and what they had gained from the Course. The most remarkable thing is that there have appeared a new variety of networks among the certified Advisors. The Course has turned out to incite the participants to networking, especially by encouraging each participant, in the course, to pursue their own study: decide on their subject of researches, method, and how to give their presentation. We can see from our survey that lifelong learning program of the college has made a great contribution to the practice in the local community.

はじめに

文部科学省の補助事業である「男女共同参画アドバイザー養成講座」は、山梨県教育委員会が県内の大学を実施機関に依頼し、1996年から実施されてきた。1996、97年度は山梨学院大学生涯学習センターが、1998年度以降は山梨県立女子短期大学が企画・運営し、今年2001年度で6回目を迎えた。この間延べ260名が「男女共同参画アドバイザー」として修了証を授与されている。2〜5回の修了歴を持つ「リピーター」も含まれており、実数191名が本講座を修了したことになる。

1999年6月に「男女共同参画社会基本法」が成立し、2000年12月には「男女共同参画社会基本計画」が閣議決定され、山梨県でも基本計画の策定と条例の制定が今年度中に予定されている。また64市町村のうち、30市町村の男女共同参画プラン(または女性プラン)がすでに策定済みである(46.9%)。この策定率は全国でも5位に位置するが、今年度中にはさらに数町村で策定の見込みである。このような地域レベルでの男女共同参画社会形成に向けての取組みは、もちろん行政担当者のみが担ってきたのではない。地域で様々な実践をしてきた人々の力が大きく寄与しているのである。

本講座は人口88万人の山梨県において、男女共同参画に関するリーダー養成のための唯一の長期連続講座である。修了生は講座終了後も自主グループを作って学習・実践活動を継続したり、またそれまで関わってきた地域活動や職業に成果を活かし、さらに新しい挑戦をするなど、多方面に活躍している。この「学習⇒エンパワーメント⇒実践」の過程を把握するため、第1回から5回までの講座の修了生を対象にアンケート調査を行なった(2000年11月)。この分析を中心に、本稿では、本講座が山梨の男女共同参画社会形成にどんな役割を果たしているか、二つの視点から検討したい。

① 受講者の視点から：本講座に何を求めて参加し、講座での学習はどんな意味を持っていたのか。何を得て、その成果をどう活かしているか。

② 大学の生涯学習機能の視点から：このテーマで、かつ後述のような学習スタイルでの連続講座を、地域の大学が企画・実施している例は、全国的にも珍しい。高等教育機関である大学が持つ生涯学習機能が、地域の課題とどう結びつき、人々の実践につながっていくのか、その事例とも言える。実施機関として、受講者のエンパワーメントに資する講座にするために、どう配慮し、工夫したか、またその評価についても考察する。

Ⅰ．講座の展開と特徴：エンパワーメントへの支援にあたって

「男女共同参画アドバイザー養成講座」は、「男女共同参画社会の実現」に向けた事業の一環として、「地域社会における市民生活や行政で男女共同参画を推進する動きを助長するアドバイザー、特に住民が男女共同参画推進のための学習活動を行う際に、これを援助する『学習アドバイザー』の養成」を目標としていた(『平成8年度報告書』はじめに)。大枠としてはこの目標にそう形で、1996年度から6年にわたり講座が実施されてきたが、委嘱された大学の実行主体(山梨学院生涯学習センターおよび県立女子短大講座実行委員会)による講座の位置づけや運営、そして何よりも講座参加者の意識や活動を通して、講座の性格や成果に特徴的な展開が見られる。本章では、実施機関である大学が、企画・運営する立場から、本講座をどのように位置づけ、どんなことに配慮して学習プログラムを組み、それをどう評価したかなどについて、記述・分析する。山梨学院大学によって実施された1996年度・1997年度を「Ⅰ期」、県立女子短大によって実施された1998年度以降を「Ⅱ期」として、その内容と特徴をまとめる。この二つの時期に分けるのは、実施主体が変わったことで、講座の性格に特徴的な変化が見られたためである。

1. 年度ごとの講座の概要

＜Ⅰ期＞ 山梨学院大学生涯学習センターによる企画運営

● 1996年度講座概要(修了者27名)

行政職員・社会教育関係者を中心に募集。5月から7月にかけて、ほぼ毎週土曜日(2時間半〜3時間)で全10回。前半は、「女性の生涯学習の必要性」というテーマで関連文献を読みながらディスカッションを行い、後半は、女性問題にかかわる生涯学習について県内市町村(甲府市・石和町・双葉町・武川村)の現状を報告しディスカッションを行なった。受講者自身が報告者となり意見交換

するというセミナー型学習スタイルを取った。企画運営の責任者である教員(生涯学習センター長)が、関連文献の選定や学習内容を企画し、テューターとして毎回の学習の進行をサポートした。

● 1997年度講座概要(修了者23名)

行政職員・社会教育関係者を中心に募集。5月から7月にかけて、毎週土曜日(2時間半～3時間)で全10回。前半は「生涯学習」、後半は「女性問題」をテーマに、関連文献を読みながらディスカッションを行なった。また、最終回は公開研究発表会とし、「山梨県下市町村の女性行動計画について」・「男女共同参画社会と生涯学習」というテーマで受講者による研究報告を行なった。前年度につづき、受講者自身が報告者となり意見交換するというセミナー型学習スタイルを取った。企画運営の責任者である教員(生涯学習センター長)が、学習文献を選定し、テューターとして毎回の学習の進行をサポートした。

＜II期＞ 山梨県立女子短期大学講座実行委員会による企画運営

● 1998年度講座概要(修了者31名)

「『女性の自立』を問いなおす―地域・暮らし・ジェンダーの視点から―」という総合テーマで、行政職員・社会教育関係者とともに、男女共同参画問題に関心のある人を広く募集。5月から7月にかけて、毎週土曜日(2時間半～3時間)で全10回。前半は、生涯学習・メディアや教育における「性役割」・介護問題というテーマで講義を受けディスカッション。後半は、「私たちの望む生涯学習」・「あらためて考える身近な性役割(お茶くみの実態など)」・「女性の目から考える福祉・介護」というテーマでグループ別学習を行い、3グループによる公開研究発表会を行なった。グループ別学習では、受講者による調査研究や意見交換というワークショップ型学習スタイルを取った。講座実行委員の教員(5名)が、担当職員の協力も得ながら、受講者の自主的学習・研究をサポートした。

● 1999年度講座概要(修了者62名)

「わたしたちがつくる『男女共同参画社会』への提案―女が変わる、男が変わる、社会が変わる―」という総合テーマで、行政職員・社会教育関係者とともに、男女共同参画問題に関心のある人を広く募集。5月から9月にかけての土曜日(2時間半～3時間)、全10回。この他、7～8月に、初心者向けパソコン講習、グループ別自主学習を行なった。「山梨県の女性政策」・「男女共同参画社会基本法」・「セクシュアルハラスメント」についての講義を間に交えながら、「ジェンダーの視点」・「ポジティブアクション」という講座実行委員会が設定したテーマでグループ別学習を行なった。各グループは受講者の話し合いによってさらに9つの小グループに分かれ、受講者自身が計画を立てて学習を行なった(「ジェンダー意識の実態(家庭・地域・職場)」・「ジェンダーの再生産《絵本・コマーシャルが植えつけるジェンダー》」・「働く女性とライフスタイル～働き続けたい女性のための提案～」・「女性と選挙」・「自治体の公職と女性～責任ある地位への参画について～」・「地域活動と女性＜私も女性区長になれる＞」・「環境行政と女性」・「介護問題と女性」・「雇用における男女平等～雇用の現状と意識改革をめざして～」)。また、8月には、受講者から希望者を募って国立女性教育会館主催の『女性学ジェンダー研究フォーラム』に参加し、「地域から発信する男女共同参画社会づくり」をテーマとしてワークショップを行い、全国からの参加者と交流した。9月の最終回は公開研究発表会とし、グループ毎に学習内容や調査研究内容を発表した。講座全体を通して、受講者による調査研究や意見交換というワークショップ型学習スタイルを取った。講座実行委員の教員(5名)が、担当職員の協力も得ながら、受講者自身による学習をサポートした。

● 2000年度講座概要(修了者54名)

「伝えよう　動かそう―2000年のエンパワーメント　ジェンダー・フリーの地域づくり」という総合テーマで、行政職員・社会教育関係者とともに、男女共同参画問題に関心のある人を広く募集。5月から9月にかけての土曜日(2時間半～3時間)、全10回。この他、7～8月に、初心者向けパソコン講習、グループ別自主学習を行なった。男性の立場から見たジェンダー問題についてのディスカッションや埼玉県新座市から招いた「新座はんさむウーマンネットワーク」のパフォーマンスなども受講しながら、講座実行委員会が設定した《じっくり学習》・《パフォーマンス表現》・《アクション自主》コースに分かれ、さらに受講生自身がテーマを設定して5つの小グループをつくって調査研究や自主学習を行なった(「女性プランを作ってみませんか」・「ジェンダー意識の実態調

査」・「教育現場におけるジェンダーフリーの現状」・「ジェンダーってなあに？―大型紙芝居でみる」・「『男女共同参画社会』の推進」)。また、8月には、「ジェンダー研究ツアー」として受講者から希望者を募り、国立女性教育会館主催『女性学ジェンダー研究国際フォーラム』を受講。9月の最終回は公開研究発表会とし、グループ毎に学習内容や調査研究内容を発表した。講座全体を通して、受講者による調査研究や意見交換というワークショップ型学習スタイルを取った。講座実行委員の教員(5名)が、担当職員の協力も得ながら、受講者自身による学習をサポートした。

● 2001年度講座概要(修了者64名)

「私たちの『平等参画』をめざして」という総合テーマで、男女共同参画問題に関心のある人を広く募集。5月から9月にかけての土曜日(2時間半～3時間)、全11回。この他、7～8月に、インターネットを使った情報収集講習、アンケートやインタヴューなど調査方法の講習、グループ別自主学習を行なった。女性の政治参画・逸失利益と女性差別・男女共同参画社会基本法・自己表現・埼玉県吉川市でのプラン策定に向けた市民活動の経験報告とパフォーマンスについても受講しながら、講座実行委員会が設定した《ジェンダー学習基礎》・《アドバンスト》・《プラン専門》コースに分かれ、さらに自主設定のテーマ別に5つの小グループをつくって調査研究や学習を行なった。また、8月には、受講者から希望者を募って国立女性教育会館主催『女性学ジェンダー研究フォーラム』を受講(ジェンダー研究ツアー)。修了生の活動グループとして初めて「Wingやまなし」が行なったワークショップをサポートした。9月の最終回は公開研究発表会とし、グループ毎に学習内容や調査研究内容を発表した。講座全体を通して、受講者による調査研究や意見交換というワークショップ型学習スタイルを取った。講座実行委員の教員(5名)が、担当職員の協力も得ながら、受講者自身による学習をサポートした。また、講座リピーターの有志が、学習サポーターとして初参加者の学習やディスカッションの援助を行なった。

2. 第Ⅰ期から第Ⅱ期への展開

本講座は、上記の講座概要からもうかがえるように、大学が企画運営する講座としてユニークな特徴をもっている。第一の特徴は、講座テーマがすぐれて現代的で実践的なものだという点である。大学の社会人向け講座は、教養的なテーマか実務的なテーマに集中しているのが現状だが、地域社会に密着しながら、男女共同参画社会づくりに主導的な役割を果たす人材の養成という実践的な講座を行なっている大学は、全国的にみても数少ない。こうした講座に毎年一定多数の受講者が参加しているのは、一方でジェンダー秩序の現実を変えたいというエネルギー、他方でそれに応えようとしてきた大学側の姿勢と取り組みがあいまった結果であろう。

第二は、講座テーマの特徴と直結していることだが、徹底して双方向的・参加型の学習スタイルが貫かれていることである。すなわち、学習テーマを含めて自ら学習計画を立て、調査したり話し合いながら共同で学習するというスタイルを取っている。これは、一般の大学公開講座等においては、専門家である大学教員が専門知識・技能を教授するというスタイルが多い中で、本講座の大きな特徴となっている。

以上の特徴はⅠ期・Ⅱ期を通じて一貫した特徴となっているが、Ⅰ期からⅡ期にかけて講座の性格に変化も見られる。特徴的な変化として、特に次の5点をあげることができる。

①学習ニーズや学習水準の多様化に、きめ細かく対応

Ⅰ期では講座受講者を行政職員・社会教育関係者に限定する傾向があったのに対して、Ⅱ期では募集対象をより広げた結果、学習テーマの要望や学習水準の多様化が進んできた。これに対しては、実行委員会スタッフを質量ともに充実すること、コース別やグループ別の学習を取り入れること、講座リピーターを学習サポーターとして活用することなどによって、きめ細かく対応してきた。

②学習の目標・方法を受講者が共同でつくっていく学習スタイル

学習水準が多様化する中でも、双方向型・参加型の学習スタイルを教授型に後退させず、むしろさらに推進してきた点である。テーマの大枠や講座運営方法の提示、テーマに関連する講義のコーディネートなどは大学実行委員会サイドで行なっているものの(この点でも受講経験者の意見を反映させるように配慮)、より具体的な学習テーマ・目標・方法は、話し合いを通して受講者自身が設定し共同で実行するという形を取った。

③身近な生活の諸問題から出発して広い視野や理論的積み重ねにつながる学習過程

上記の特徴とも関連して、取り上げられる問題が、一般論的なものからより身近な問題(家庭・地域・職場などでの生活体験から発掘された問題)へとシフトしてきた。男女共同参画社会づくりの促進という実践的位置づけをもつ本講座の場合、男女共同参画に関する一般的・理念的理解が必要であることは言うまでもないが、受講者が自らの生活の中で問題を発見し、それをより広い社会的視点から解釈して変革の展望を我がものとすることがなければ、男女共同参画という理念も宙に浮いたものになりかねない。この点を考慮して、自分自身の経験をジェンダー秩序という視点から語ることによって再認識する作業、話し合いを通して経験を共有していく作業を特に重視してきた。

④地域ジェンダー問題の再発見

この結果、「地域ジェンダー」とでも名づけるべき問題領域(伝統的共同体秩序と結びついた地域社会の根強いジェンダー秩序)を再発見させられることになった。これは、教科書的な一般的理解や、大都市住民の抱える問題を標準としたジェンダー理解によっては見落とされがちな問題であるが、本講座受講者にとってはまさに生きた現実なのである。この講座が、専門家が知識を伝授するというスタイルの講座であったとしたら、そうした問題の再認識も課題化もなかったであろう。この意味で、大学教員と受講者の文字通り双方向的な学習の場ともなってきたのである。

⑤ネットワークづくり

学習過程全体を通して、問題意識や経験を受講者が互いに共有することを重視するとともに、調査研究においてもグループワークを重視してきた結果、受講者の間に独特の連帯が生まれてきた。その成果は、高い水準の研究発表や受講者の充実感となって現れている。また、講座終了後の自主活動(話し合いを継続している自主グループ、出前講座を実施しているパフォーマンスグループ、男女共同参画問題にかかわるNPO結成など)の土台ともなっており、男女共同参画社会をめざすネットワークづくりに生かされているといえよう。

本講座の以上のような特徴は、たとえば次の受講感想からうかがえるように、受講者から高く評価されてきた。「大学の授業にたとえるならゼミ形式とでも言おうか？担当の先生方が私達の勝手気ままなおしゃべりの中から適切に問題点を整理したり、気づかせてくれたりしたので、一人一人が何をどうしたらいいのか、方向性を見つけることができた。・・・受身的に講義を聞くという学習形態から、能動的に自分の手や足を使って調査・検証する学習ができた。・・・少人数のグループ学習により、仲間作りが自然に生まれ、楽しく学習や作業や発表に取り組めた」(『平成10年度報告書』所収の受講感想から)。「卓越した企画運営は、きめ細かなテーマで、共鳴と感動の生きた学習との出会いであった。特に今年度は積極的な参加者が多く、昨年からの自主活動は更に大きく膨らみ、広い視点で捉えた課題を、各々が足で稼ぎ調査分析したその成果は、女性の潜在する力を示し、すばらしい発表会を飾った。正に此処から発信されるエンパワーメントを確信し、男女共同参画への道を見た思いだった。」(『平成11年度報告書』所収の受講感想から)。さらに、講座受講がきっかけとなって、先に指摘したようないくつかの自主グループが生まれたり、また女性の町議会議員が誕生するなど、本講座は着実に受講者のエンパワーメントにつながっていると評価できよう。

Ⅱ.修了生アンケートの分析

1.調査の目的と方法

以上のように企画・実施する側としては、毎回前年度より学習目標のレベルを高くし、プログラムにも工夫を加えて講座を提供してきた。そのプログラムを十分にこなす、達成度の高い学習者が存在したからこその相互作用である。学習者の側にとって、この講座はどんな意味を持っていたのだろうか。

修了生の方々の動向を把握し記述しておくことは、本講座の記録であると同時に、山梨における男女共同参画社会づくりの歴史の一部としての意義が大きいと考え、次のように調査を行なった。

1)調査対象と方法

2000年度の講座終了後(11月)、5年間の修了生150名全員(女性134名、男性16名)を対象に郵送によるアンケート調査を実施した。

2)調査項目

① 講座受講時の地域活動歴、学習歴、職歴
② 受講の動機や理由
③ 受講して得たこと

④ 自分自身の変化
⑤ 受講後の活動
⑥ 女性問題、男女共同参画問題に関心を持ったきっかけ

3)回答者

女性89名、男性12名の計101名から回答があり、回収率は67.3%であった。ただし、年度ごとにみると、'97～2000年度は65～80%であるのに対し、第1回の'96年度は48.2%であった。

2. どんな人が何を求めて参加したのか

1)修了生の概況

まず初めに、2001年度を含む講座修了生の基本的特徴について記述しておく。

修了者数の推移とリピーター

各年度の修了者数を表1に示した。Ⅰ期の修了者数は30名未満であるが、これは1名の講座担当教員による「ゼミ形式」の学習方法を取り、募集定員を少数に設定したためである。一方、Ⅱ期に入ると実行委員会方式で複数の教員がグループとして講座を担当し、すでに述べたように学習方法も変化させていった。図1および図2にみるように、Ⅱ期の修了者の増加は新規修了者だけでなく、2回以上の修了者(リピーター)が増えているためである。これは、毎年企画に際して新しいテーマでのプログラムを工夫していることはもちろんだが、自主テーマによるグループ学習をプログラムの中に取り入れたことにより、講座での学習の自由度が高くなり、自分自身の新たな課題を持って参加することが可能なためと思われる。

全修了生のうち2割強がリピーターであり、3回以上の修了生も1割いる。たとえば2001年度の修了生に占めるリピーターの割合は36%だったが、この人々が受講生全体の中核として、グループ学習や講座の運営の中で、学習初心者をリードする役割を果たしているのである。

男性参加率

男女共同参画をテーマにした生涯学習講座への男性の参加が少ないことは、大きな問題として指摘されてきた。本講座の修了生のうち男性の占める割合は、Ⅰ期の方が高い(表1)。これはあとでみるように、市町村の社会教育関係者の男性が多く参加したためである。これに対し、Ⅱ期の男性修了生は職業も多様で、職業上の関心とは別の立場で男女共同参画というテーマに関心を持ち参加した人がほとんどである。その意味では男性の新たな学習者が開拓できたとは言えるが、依然としてこの点は課題である。

年齢層

アンケートへの回答から、2000年度までの修了

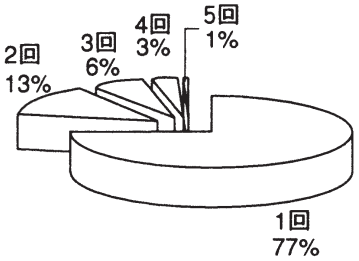


図1　全修了者の修了回数
(1996～2001年度)

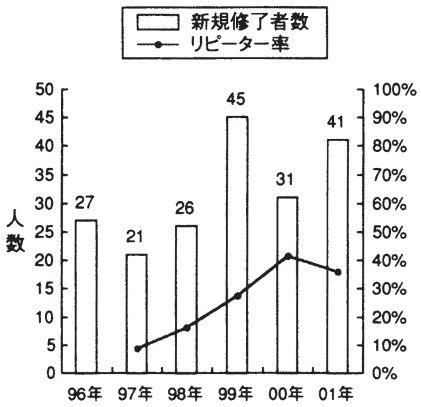


図2　新規修了者(人)と
リピーター率(%)の推移

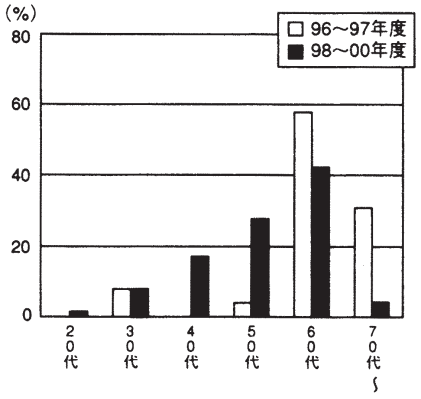


図3　修了者の年齢層

表1　年度別修了者数

	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	計(延べ人数)	計(実数)
女性	19	19	30	61	48	61	238	174
男性	8	4	1	1	5	3	22	17
合計	27	23	31	62	53	64	260	191
男性参加率	29.60%	17.39%	3.20%	1.60%	9.40%	4.70%	8.46%	8.90%

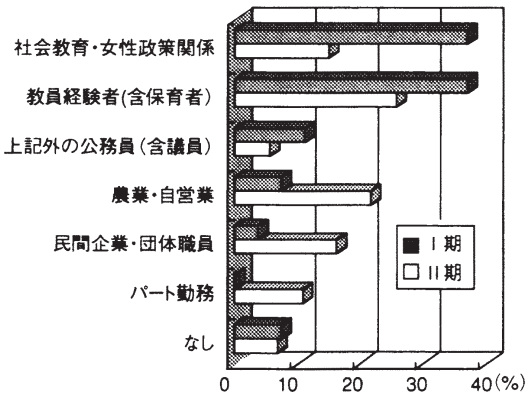


図4　修了生の職業経歴

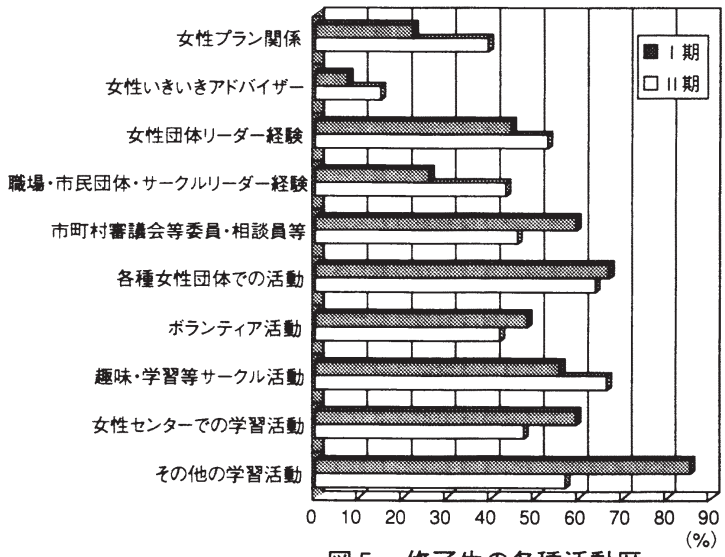


図5　修了生の各種活動歴

生の年齢構成を図示したのが図3である。調査時の年齢なので数年のズレがあるが、Ⅱ期の方が比較的若い世代を含む広い年齢層からの参加があるといえよう。

居住地域

2000年度までの5年間に、県下42市町村から修了生が出ている(付表1)。'99年度以降は20市町村以上からの修了生となっている。修了には出席回数が届かなかった受講生を含めるとこの数はさらに多くなり、2002年度の場合、39市町村にわたっている。大学の所在地である甲府市の修了生が最も多いが、富士吉田、都留、高根、小淵沢など遠方からの参加も少なくない。県内各地から参加者があることによって、本講座は様々な地域の情報が集積する場となっており、そこでの情報交換自体が大きな学習資源となっているのである。

2)職業等活動歴

講座を受講するまで、どんな活動をしてきた人々が参加したのか、職業その他の活動歴を分析した(付表2参照)。9割の人が職業経験を持ち(現職者も含む)、女性の場合も主婦専業の人は少ない(図4)。また、それ以外にも様々な学習活動や社会的活動をしてきた人が多く、多様な活動の蓄積の上に「男女共同参画」をテーマとする本講座を受講していることがわかる(図5)。ただし、Ⅰ期とⅡ期では以下のような違いが認められた。

Ⅰ期は約9割が60歳以上であるが、この期の募集方法を反映して県市町村の社会教育・女性政策関係者、教員経験者が多く、これらを含め公務員経験者(多くは退職後の受講)が85%を占めていた。男性が比較的多いが、そのほとんどは社会教育担当者である。女性センターなどでの学習歴のある人も多く、女性団体で活動し、そのリーダー経験のある人や市町村の審議会委員等の経験者も多い。

これに対し、受講者層の拡大を意図して企画、募集したⅡ期では、年齢層が若くなり、農業・自営業・企業勤務、パートなどの現役就業者の割合が増加している。職場関係・市民団体やサークルなどのリーダー経験者など、伝統的な女性団体以外で活動している人も増えている。また、本県での市町村女性プランの策定機運が高まったこともあり、「女性いきいきアドバイザー」(山梨県独自の制度で、市町村の女性政策を推進するために知事が委嘱する)やプランの策定・推進の関係者(策定・推進委員、現職の女性政策担当者)が半数に達しているのもⅡ期の特徴である。プランの策定や推進の手がかりを得る場として、委員と行政担当者が一緒に受講する例も珍しくない。

以上のように、修了生の特徴からみると、Ⅰ期からⅡ期への変化は、地域、年齢、職業その他の活動歴の多様化、リピーターおよび女性プラン(男女共同参画プラン)関係者の増加として特徴づけられる。

3)受講の動機

最初に本講座を受講したときのきっかけや動

表2　受講動機の分類と記述例

受講の動機	I期	II期	全体	記述例
男女共同参画プラン策定・推進のため	18.5	29.7	26.7	女性いきいきアドバイザーの任期中に女性プラン策定のため学習し、目標を達成したかった(女性・70代)／女性プラン策定が事業化されたが、女性行政が全くわからず、勉強しなければと思って(行政担当、女性・50代)
男女共同参画社会づくりのため	22.2	17.6	18.8	管理職としての仕事と家事・子育ての両立が難しく、女性が仕事で自己実現するのがなぜこんなに大変なのか疑問に思った(女性・30代)／一人四役で頑張っている娘の現実を見て、女性問題を考えたいと思った(男性・70代)
仕事上の関心・成果の活用のため	7.4	9.5	8.9	村会議員となり、男女共同参画社会について勉強したかった(女性・50代)／女性教育担当になり、男女共同参画社会に向けていろいろ学習したかった(女性・40代)
テーマへの関心と自己啓発のため	29.6	24.3	25.7	議員立候補をしてみて住民の旧態依然にむなしさを感じ、学習の中から何かを得たかった(女性・50代)／自校の女子生徒の現状に歯がゆさを感じて(高校教員、女性・40代)
人との出会い、「自分探し」のため	0.0	10.8	7.9	今後の生き方の模索のため、妻への感謝をこめて(男性・60代)／いろんな人と出会い刺激を受けネットワークを作りたかった(女性・20代)／職場以外の多種多様な人々と交流して、新しい時代に対応する能力を学びたかった(女性・60代)
勧められて	11.1	9.5	9.9	すでに受講した友人に勧められて(女性・50代)
その他	14.8	2.7	5.9	講師に魅力を感じて(女性・70代)

*数字は、I期27名、II期74名、全体101名に対する百分率。複数回答あり。

機・理由(自由記述)は、表2のようなカテゴリーに分類された。

①男女共同参画プランの策定や推進のため

女性いきいきアドバイザーに任じられたり、女性政策の担当者となり、女性プランの策定を事業として行なわなければならなくなったため学習の必要を感じて受講したなど、この理由をあげた人が最も多かった。受講動機の点からも、本講座が全国でも高位の策定率を誇る山梨県の市町村女性プラン・男女共同参画プランの策定や推進にとって、"常設の"学習の場として一定の役割を果たしてきたといってよい。

石和町からは、すでに'96年度に女性いきいきアドバイザー、女性団体の代表、策定委員長(男性)、また'97年度には女性政策担当者が参加している。町のその後の先進的な取組みの学習面での基礎となったといえよう。また竜王町や韮崎市、田富町などのように、プラン作りのための学習機会として、行政担当者が策定委員に積極的に本講座を紹介している例も多い。また逆に委員が担当者を誘って参加し、ともに修了している例もある。

② 男女共同参画社会づくりのため

自分や家族の直面した現実から、男女共同参画社会の実現のために学びたいと思った人も多い。「結婚後退職をして再就職に臨んでみたものの、結婚している女性であること、やがて子どもを持つであろう女性であることで、就職活動が非常に困難だった。このような差別、不公平に対する憤りをどこにぶつけたらよいのかくすぶっている時、母がチラシを見せてくれ、ちょうどよい勉強の場よ、と勧めてくれた」という高校教員をしていた女性は、講座のある日は1歳8ヶ月の子どもを母親が預かって全面協力してくれたという。講座では同じ関心を持つ人を募って「女性と労働」をテーマとするグループ学習を行い、終了後も同じメンバーで学習会を続けている。

また町の役場に勤務している30代の女性は、「公務員なので職場は完全な男女平等と思い就職したが、入庁式に『女性は掃除やお茶くみがあるので早く来るように』言われたこと、会議中なのにお茶くみをしなければならず、内容がわからなくなること、女性の管理職が一人もいなかったこ

となどを改善したかったが、それには知識が必要」と考え受講した。グループ学習のテーマに「お茶くみ」問題を取り上げ、他のメンバーとともに役場や学校、企業での実態を調査し、特に役場・役所でこの慣行が多いことなどを発表した。これは地元の新聞にも取り上げられ、古くて新しい女性問題として注目された。どちらの例も、自分自身の直面している問題をきちんととらえて課題化し、それを素材とした学習・研究を進めて成果をあげた例といえる。

表2の例の70代の男性は、自分の娘の姿だけでなく、幼稚園長をしていた時の女性教諭や母親達の悩みに身近に接した経験が男女共同参画問題への関心の基盤となっており、2年にわたり受講、修了し、現在地元の男女共同参画プランの策定委員として活躍している。

③テーマへの関心と自己啓発のため

実践的な目標は持っていないが、男女共同参画というテーマに関心を持ち、自己啓発のために受講した人も4分の1を占める。

本講座の前に「やまなしウィメンズカレッジ」(同じく文部科学省の補助事業で、女性問題の入門的な講座)を受講していた女性は、「主婦も自由に大学の門を入れる嬉しさと、学ぶことの奥深さを知り、時間を割いても学びたく思った」という。また小学校教員をしている女性は「男女平等教育の学習を深め、学校だけでなく幅広くジェンダー・フリーについての情報を得るため」受講し、グループ学習での成果(大型紙芝居)を活用した研究授業を行って教育研究集会で発表している。教員が教育分野以外の人々とともに学び、その成果を教育実践に活かしたという意味で、生涯学習の講座と教育現場とが連動した貴重なケースといえる。

町の社会教育行政にたずさわってきた30代の男性は、「この中で女性問題を学んできたが、一人の人間としても性別分業に納得がいかなかったので、さらに自分の視野を広げたかった」という。彼は役場で女性だけがすることになっている「お茶くみ」を廃止しようとして、女性の同僚たちから支持されなかった経験を持ち、「自分の考え方(の正しさ)を確認する意味もあった」とも述べている。

④仕事上の関心、成果の活用のため

職業上の関心から男女共同参画というテーマに関心を寄せて受講した人には、社会教育担当者以外にも、女性議員や社会保険労務士、子育て支援の仕事をする人などがいる。保育士を退職してから甲府市のファミリーサポート・センターにアドバイザーとして勤務する女性2名は、「現在の世相を正しく把握すべく、多角的な学習が必要となったため」本講座を受講した。この縁で、2001年度は保育サポーターとして、乳児を連れて受講した女性(いきいきアドバイザー)を援助してもらい、修了を果たすことができた。講座の意義を認識した修了生が、子連れの受講生をサポートすることは、学習成果の活用という点でも、また世代間の交流や成果の継承という点でも大きな意味がある。

⑤人との出会い、「自分探し」のため

この理由をあげた人はⅡ期の修了生のみであった。このことは、Ⅱ期の講座内容に対応した受講者層の拡大を示している。「自分がこれでよいのか自問を繰り返していたときに、ラジオで参加の呼びかけを聞いて」受講した女性(60代)は、亡夫の母を介護しながら修了し、その年の「一日女性県議会」に公募で参加し委員会副委員長を務めている。また、「子どもの入園を機に夫の希望で勤め始め、家庭と職場、子どもたちの送り迎えの往復で日々忙しく過ぎ去った。振り返ると何の趣味も特技もない自分自身にむなしさを感じて、何かをしなければと考えるようになり、その何かを見出したくて受講」した女性(50代)もいる。

以上のように、さまざまなキャリアの人たちが、地域での実践に直結した動機から、自分や家族の体験に深く根ざした動機まで、それぞれの思いを持って受講生となっている。保育所を定年退職後、「社会のために、自分のために、私にできることはないかと思ったときに新聞紙上で募集を見て、勉強してみたいと思った」(女性・60代)というように、退職を契機に自分の新しいライフスタイルを模索する場として本講座に参加した人も少なくない。「常々女性の地位向上による意識改革を望んでおり、新聞広告にて、こんな講座があるのかと驚いてさっそく申し込んだ」という男性(50代)は、職場で女性管理職を出そうと努力したが企業内の壁に阻まれた経験をもつ。「地域人」として生きたいと定年前に退職し、「主夫」をしながら本講座に熱心に通い修了した。男性は修了生の約1割であるが、Ⅰ期は社会教育関係者が仕事上の動機で参加した場合が多く、Ⅱ期にはこの男性のように、家族や職場の部下・同僚など身近な女性たちと関わった体験から男女共同参画への関心を持ち、学習を始めた人が増えている。

3. 何を得て、自分がどう変わったのか：学習の成果とエンパワーメント

それぞれの動機で受講した修了生は、講座から何を得たのだろうか。選択肢による評価と「自分の考えや行動の変化」についての自由記述を資料として分析した。

1)受講成果の評価

受講の成果を選択肢によって評価してもらった結果が図6である。7つの選択肢についてあてはまるものをすべて選んでもらったが、Ⅰ期の修了生では平均4.9件、Ⅱ期は平均5.6件が選択されており、修了生は講座からさまざまの成果を得たと認識している。

Ⅰ期とⅡ期に共通しているのは、多くの修了生が、講座での学習によって新しい知識や考え方を知り、視野を広げ、「男女共同参画社会」の必要性をいっそう意識し、自分の実践に役立つ知識やヒントを得たとしている点である。一方、「新しい友人・仲間・ネットワークができた」は圧倒的にⅡ期に多い。これは、グループ学習を取り入れたワークショップ型の講座スタイルが生み出した効果として評価できよう。

2)自分の考えや行動の変化

自由記述の内容は、大きく分けると「自己変革・自己確認」「ジェンダー問題に対する意識の深まり」「人との関係における変化」「地域における発信・実践の努力」に分類することができる(表3参照。詳細は付表3に記載)。

①自己変革・自己確認

約半数の人が、気持ちの持ち方や態度、行動傾向など自分自身の内的な変化をあげている。多くの人が自分の変化を、自信、確信、勇気、挑戦、前向き、やる気、責任、積極性、がんばり、ゆとり、自然体などの言葉で表現している。学習によって得た知識だけではなく、「学んでいる」ということ自体が自信となり、自己イメージをポジティブな方向で変化させたと考えられる。

「自分の考えを話せるようになった」および「同じ気持ちの人が存在することによる励まし、共同作業による喜びの体験」について記述した人は、ほとんどがⅡ期の修了生であった。このことは、既に述べたように、受講成果についてⅡ期の修了生の86%が「新しい友人・仲間ができた」という評価をしていることと対応していよう。「これまでは周囲に遠慮していたが、多くの仲間たちの言動に刺激され、もっとどしどし発言していこうと思った」というように、話し合いや大勢の前での発表を常に含む講座のスタイルやグループでの学習は、自己表現のトレーニングの機会でもあり、またグループのメンバー同士が行動のモデルを提供し合う場となって、受講生のこのような変化を生み出していると思われる。他の受講生との関係は、仲間、同志、めぐりあい、出会い、喜び、楽しさ、うれしさなどの言葉で記述されている。このような関係こそが自分を肯定し、積極的に表現

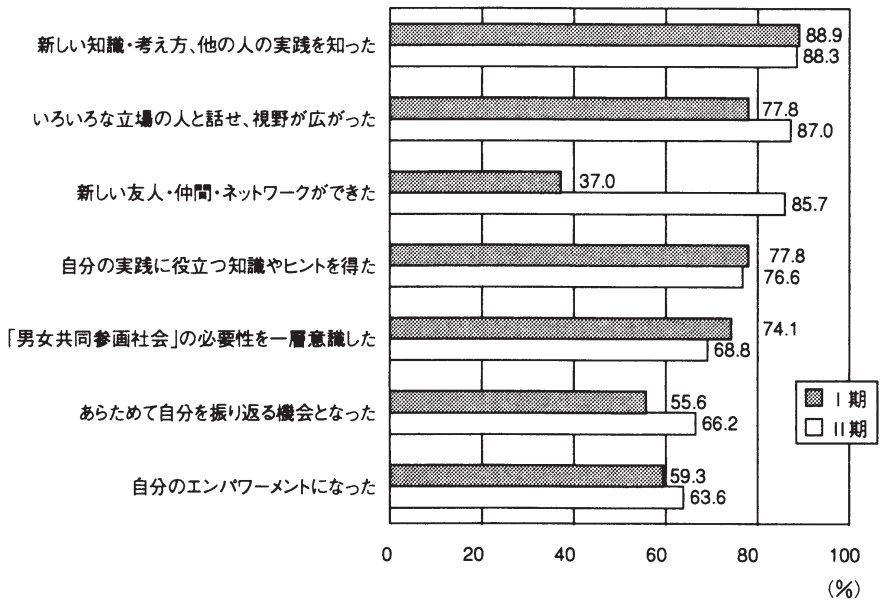


図6　修了生による受講成果の評価(複数回答)

表3　受講による「自分の考えや行動の変化」（分類と記述例）

1.自己変革・自己確認（51.5%）		
1-1.積極性・自信・挑戦する勇気の獲得	23.8	何事にも挑戦する勇気が出てきた／堂々と前向きに自信を持ってやって行こうという気持ちになった／能動的になれ、積極性がでてきた
1-2.自分の考えを話せるようになった	12.9	町の役職者の男性にも、講座での知識が自信になり自分の意見を言えるようになった／男性とも気軽に語れるようになった／大勢の中でも発言することがこわくなくなった
1-3.学習意欲のいっそうの高まり	8.9	自分の力をつけるためもっと学びたいと思った／新聞の文化・社会面を読むようになった／自分の周りの一つ一つに目を向けるようになった
1-4.同じ気持ち・考えの人々が存在することによる励まし・勇気、共同作業による喜びの体験や自信	6.9	多くの仲間がいることを実感でき、勇気づけられた／一人では自信がなくとも、何人かが集まって行動すれば必ずできる自信を得た／大勢の力が集約されて物事が出来上がることの楽しさを体験
2.ジェンダー問題に関する意識の深まり（25.7%）		
家庭や地域での性差別が目につくようになった／何気なく使っていた言葉に注意するようになった／同じ光景を見ても、今まで何も気づかなかったことを、女性の視点からの問題点に気づくようになった（男性）／行動を起こさなければと強く感じた／男女共同作業のとき、自律か他律かを内省するようになった（男性）		
3.人との関係における変化（16.8%）		
3-1.他の人々へのまなざしの変化	10.9	共感性の幅が広がった（男性）／多様な生き方、考え方があることを知り、他人に対して幅広く考えられるようになった／グループ活動の中で、相手の考えや言い分をじっくり聞くことの大切さと努力の必要を学んだ
3-2.夫・家族との関係の変化	5.9	女性だからといつも夫より自分を下に置いてきたが、夫と平等だというように考えが変わった／周囲に気遣い遠慮していたが、今はどしどし家の事を協力してもらい外に出かけている
4.地域における発信・実践の努力（18.8%）		
学習成果を家族や隣近所の人に話し、資料を配布／男女共同参画社会の実現がいかに大切かを、まわりの人にわかりやすい言葉で話せるようになった／無尽会や趣味の会でも男女共生について積極的にはなすことが多くなった		

する契機となって、ひとりひとりのエンパワーメントにつながっていることがうかがえる。そしてこの絆によって、修了生同士の“同窓”グループがいくつかうまれている。

②ジェンダー問題に関する意識の深まり

26%の人が、家庭や地域という身近なところにある差別に気づいたり、ことばに敏感になり選んで使うようになったなど、自分の意識が深まったと認知していた。特に男性の修了生ではこのような変化を自覚する人が多く、「学習により男のエゴをつくづく考えさせられ、積極的にジェンダー・フリーの社会づくりを推進していこうと思うようになった」と記述した人もいる。話し合いの中で女性たちの生の声をたくさん聴き、意見交換することによって、ジェンダーに関する意識の深化が促されたといえよう。男性の受講生にとっては、男女共同参画というテーマで多くの女性と対等な立場で語り合うことは、非常に非日常的な、しかしそれだけ鮮烈な経験であり、深い意識変化に結びついたと思われる。

③人との関係における変化

「多くの方にめぐり逢え、自分と違う角度からの提案を聞くことができ、考えや行動に幅が出来た」というように、地域、職業、世代、活動歴などの異なる多様な受講生どうしのかかわりや意見交換を通して、受容する力が増して、自分も柔軟になったと感ずるなど、他者を見るまなざしが変わったと意識する人も約1割いた。このような変化も重要なエンパワーメントの一つであり、地域での実効力ある活動にもつながると思われる。

「新規転入者は地域の旧習を批判しがちだが、いろいろな市町村から集まった方々とのふれあいによって、町や県に対する見方に余裕が出た」と述べた人もいる。

また、学んで自分の意識が変わっただけでなく、身近な家族に働きかけて関係を再構築した人もいる。「今までは家事を自分の仕事と決め付けて、夫が手伝ってくれると申し訳ない気がしてすぐ手を出していたが、今では感謝しながらも手伝ってもらっている」「ホームヘルパーの勉強に通う間、夫も父も男女共生で協力してくれた」「家計は夫任せだったが、少しは聞いてみようと思う」など、家庭での役割分担に関することが多い。足元からの男女共同参画社会づくりとして、重要な実践例である。

④地域における発信・実践の努力

「職場の同僚の意識改革に努めるようになった」「自分のしてきたことの方向性を確信でき、積極的な取組みに着手するよう心がける」「教育委員として町の担当者に助言している」など、男女共同参画の地域づくりのためのヒントを学習により得て、それぞれの立場で新たに(あるいはこれまで以上に積極的に)行動を起こしたことを「自分の変化」と認識している人は2割近くいた。

その源泉として、「わかりやすい言葉で話せるようになった」というように、メッセージを発信する力がついたことも大きいだろう。「紙芝居の作成により誰にも分かりやすく説明する方法を知ることができた」「参加型学習の取り込みなど、啓発活動へのヒントを得た」などの記述もある。講座の中で学習した知識を基盤として、周囲の人々に男女共同参画についてわかってもらうにはどうしたらよいか、その方法も学習の中からヒントを得て、発信できるようになったといえよう。

4. そして何をしたか：学習成果の活用と実践

このように、本講座からそれぞれの成果を得た修了生は、自分のエンパワーメントをその後どう活かしているのだろうか。受講後の活動についての自由記述を整理したのが表4である。資格取得や再就職、学習の継続など自分自身のキャリアの蓄積に向けて新たな行動に踏み出した人、夫の家事への参画や学習参加という夫婦関係の変革を行った人など、自分自身や家族との関係の新しい展開を図り、実践した人は多い。さらに、約7割の人が男女共同参画の地域づくりに向けて、啓発活動やプランの策定・推進など、地域への発信と参画活動を行い、「男女共同参画アドバイザー」の役割を果たしていることは、特筆に価する。本講座での学習成果を地域での実践に結びつけるために、修了生自身がいかに熱心に取り組んでいるかを示しているからである。この意味で本講座は、地域での実践に直結した成果をもたらしていると

表4　修了後の実践・活動

1. 自分自身のキャリアの蓄積(29人)　28.7%	
1-1. 資格取得、再就業、起業にチャレンジ	6.9%
1-2. 学習の継続(各種講座、視察・研修)	19.8%
1-3. 地域での活動への参加	9.9%
⇒ 自治会、ボランティア、グループ活動	
2. 夫婦関係の変革(13人)　12.9%	
2-1. 夫の家事参画と学習参加	12.9%
3. 地域への発信と参画のための活動(68人)　67.3%	
3-1. グループづくり、ネットワークづくり	44.6%
3-2. 周囲の人々への啓発、働きかけ	26.7%
⇒ 身近な人々、グループ活動の場で、自治会活動の場で、自分の仕事に関わって	
3-3. 男女共同参画プランの策定・推進活動	23.8%
3-4.「男女共同参画」関連の各種講座・研修・イベントなどの企画・運営	20.8%
3-5. 講座やイベントでの発信者になる(発表、パネリスト、講師など)	13.9%
3-6. 行政への提案、提言、働きかけ	13.9%
3-7. 政治参画に関わる活動	11.9%
⇒ 立候補(当選3)、学習・支援・組織づくり、女性議会への参加・企画	
3-8. 県市町村の審議会等の委員になる	5.0%

(注)　上記1～3のカテゴリーに付した数字は、下位カテゴリーの少なくとも一つに該当する人の実数と全回答者に対する百分率。複数回答あり。

いえよう。

各修了生の活動内容の要約を付表4に記載した。ここでは、アンケート調査時点以降の情報も含みながら、本講座で学んだ人々の中から特徴的な例をいくつか取り上げ、紹介しておきたい。

＜キャリアの蓄積と男性の家事参画＞

自分が変わって夫を変える：再就職活動の際「結婚している女性」に対する差別に憤りを感じて受講、仲間に出会ってから、家事・育児も夫と半分ずつすればよいと確信、再就業を経験。夫ももっ

と家庭参画ができるよう転職予定(女性・30代・元教員)。この女性は「働く女性とライフスタイル」をテーマとしたグループの中で学習し、終了後も「H.L.W.」という同窓グループとして活動している。メンバーには女性が仕事と家庭を両立させる大変さを自ら体験したり、自分の娘たちのために女性が子どもを育てながら働ける環境を作りたいとする女性たちもいる。

男性自身が変わる：従来妻が担当だと思っていた家事に積極的に参加、掃除、食事作りと片付け、買い物その他をこなし、受講時の仲間と同窓グループを立ち上げて活動を継続（男性･50代)。この男性は町の担当者に働きかけて学習会を立ち上げ、男女共同参画プランの策定に向けて活動している。

＜地域への発信＞

ネットワークをつくって：女性いきいきアドバイザーのネットワークを作り、文部省の委嘱事業を展開(東部富士北麓ネットワーク)。

大型紙芝居で楽しく啓発：講座で紙芝居「ジェンダーってなあに？」を作成したグループは終了後、それを用いた活動を継続している。「県教育研究集会でこの紙芝居を教材とした授業実践を発表、授業参観を利用し、保護者にも啓発」(小学教員)、「村の議員研修で講座で作った紙芝居を見せた」(女性議員)など、メンバーが個別の活動に利用したり、イベントなどへの貸し出しも多い。グループ「Wingやまなし」を立ち上げ、2001年度の「女性学ジェンダー研究フォーラム」のワークショップに応募、実施し、全国への発信を行った。講座の同窓グループとしては初めての経験であった。

足元からの啓発：町のプラン策定中に女性数人で受講、自治会活動の男女参画化をめざし、自治会連合会長を招いての座談会を企画し、講座でのグループ活動の成果(調査資料や大型紙芝居)を用いてアピール。

＜男女共同参画プランの推進＞

男性委員長として：「男女同一労働、同一賃金」のスローガンも掲げて労働運動に長く関わってきた経験を持ち、町のプラン策定委員長として受講。終了後は男女平等社会の実現を「生涯の仕事」にするつもりで、町プラン推進委員長として各地区への出前講座を実施中(男性・70代)。

女性いきいきアドバイザーとして：農協職員、酪･農業をしながら、地域社会を動かすのは男性、その下で実際の活動の半分以上を女性が担っている不条理を黙認していた自分に気づき、いきいきアドバイザーとしての役割を果たすために講座に参加。男性の考え方も理解したいと配慮するようになった。「地域活動と女性」をテーマにしたグループ学習の成果を発信しながら、村のプラン策定委員としても活動、山梨では数少ない女性の教育委員に就任(女性・50代)。

勇気を出して委員に応募：農業をしながら「ウィメンズカレッジ」での学習に参加。県の女性海外セミナーに派遣され、ホームステイ先で男性も積極的に家事参加している姿に感動。地域での意識変革のために、学習して自らが変わる必要を感じて受講を始め、本講座を5回修了(最多修了生)。町のプランの推進委員の公募に「勇気を出して」応募し、活動中(女性・60代)。

職業キャリアを地域に活かして：県職員として福祉・社会教育・女性問題に長く関わり、その間昇任などでの女性差別に直面。退職後、一般社会人としての広い視野の必要性を感じ受講。町の女性たちの学習会を組織し、プランの準備・策定・推進委員長として活動。地域の児童館を拠点とした子育て支援サークルも開設(女性・60代)。

＜政治参画に関わる活動＞

自分が立候補：北京女性会議への出席がきっかけで、女性を政策決定の場に出すことの重要性を認識。模擬議会を開催して仲間づくりをしながら統一選への立候補を呼びかけたが、自分が出なければ実現できない状況になり、町議に立候補。当選して女性議員誕生の夢を果たす。(女性･70代)

学習の仲間から：「女性と選挙」をテーマにしたグループの一人は、メンバーの応援も得て町会議員に4度目の挑戦、念願を果たし活躍中。「男性は実力がなくても金さえあればできる。その悔しさが私を何回も挑戦させた」(女性･60代)。メンバーの中で受講前に立候補して「旧態依然とした」住民意識に失望しつつ、本講座で仲間と出会え、人の見方が変わったという修了生は、「しんどいけど続けようと勇気づけられ、自信もつき」、市のプラン推進委員として活動しつつ、政治参画のための学習を続けている(女性・50代)。

まとめ

上のような実践はもちろん、本講座での学習の

みによる成果ではない。修了者の多くはすでに地域で各種の活動をして本講座に参加しており、そのキャリアの上に積み上げられた実践である。男女共同参画についてそれぞれの思いをもって参加し、様々な人々と出会い、グループでの学習活動を通じてさらにエンパワーメントし、それを地域での実践に還元しているのである。このような人材が十分活躍できるよう、行政の側の意識改革も課題である。同時に行政の枠組みの中で「活用」されることだけではなく、学習によって力をつけた地域住民自身が対等な立場で行政に参画してゆくという視点も必要であろう。

大学としても、オーガナイザーとしての力量が問われる。現在本講座は、5回目の受講生から初めての受講生までが集い、まさに1年生から5年生までが在籍する「学校」ともいえる。大学は会場とプログラムを提供しているという以上に、受講生にとってはそこへ行けば仲間がいて何かができる「場」として、機能しているのである。大学の生涯学習機能を利用して、地域の男女共同参画課題を住民自身が掘り起こし、学習・調査研究活動を行い、課題解決のための実践につなげてゆくという本講座のあり方は、地域の人々と大学との連携の実験的試みでもある。

いま、その試みがさらに次の段階を迎えている。県立女子短大が初めて企画・実施した年度の修了生有志が終了後結成した「ぐるーぷef」のメンバーが中心となり、その後の修了生とともに、6年間の修了生すなわち「男女共同参画アドバイザー」のネットワークをNPOとして立ち上げた。「やまなし女(ひと)と男(ひと)ネットワーク」である。男女共同参画の地域づくりに向けてその活動を期待したい。

謝　辞

本稿は、修了生のみなさんのご協力により実施したアンケートの回答を資料としています。その一部を昨年「女性教養」誌上に発表した原稿に加筆して、ようやく形を整えることができました。ご報告が遅くなったことをお詫びします。

山梨学院大学生涯学習センター長として、この講座の基礎をつくって下さった宮坂広作先生、県立女子短大での講座実行委員長として、私たちに生涯学習事業の醍醐味とすばらしい出会いの機会を準備してくださった米田(松本)佐代子先生に、心から感謝したいと思います。

文献

＜各年度報告書＞

1. 平成8年度男女共同参画アドバイザー養成講座　平成8年5月11日(土)～7月13日(土)　山梨県教育委員会　山梨学院大学生涯学習センター
2. 平成9年度男女共同参画アドバイザー養成講座　平成9年5月10日(土)～7月12日(土)　山梨県教育委員会　山梨学院大学生涯学習センター
3. 平成10年度女性の生涯学習促進総合事業　男女共同参画アドバイザー養成講座「女性の自立」を問いなおす―地域・暮らし・ジェンダーの視点から―　山梨県教育委員会　山梨県立女子短期大学
4. 平成11年度女性の生涯学習促進総合事業　男女共同参画アドバイザー養成講座　わたしたちがつくる「男女共同参画社会」への提案―女が変わる、男が変わる、社会が変わる―　山梨県教育委員会　山梨県立女子短期大学
5. 平成12年度女性の生涯学習促進総合事業　男女共同参画アドバイザー養成講座　伝えよう　動かそう―2000年のエンパワーメントジェンダー・フリーの地域づくり　山梨県教育委員会　山梨県立女子短期大学

＜その他＞

1. 池田政子(2001)：山梨の女たち・男たちのエンパワーメント―「男女共同参画アドバイザー養成講座」から地域実践へ―　女性教養、No584、3-6.

付表1　修了者の居住市町村（各市町村の修了者数）

年度	1996	1997	1998	1999	2000	2001	96～'01
合計市町村数（実数）	17	7	17	24	21	29	42
64市町村に対する%	26.56	10.94	26.56	37.50	32.81	45.30	65.63
甲府市*	6	14	8	17	11	7	63
竜王町		1	1	6	2	4	14
白根町	1	1	1	2	3	6	14
塩山市	1		2	4	3	3	3
櫛形町	1		2	2	5	1	11
山梨市			2	3	3	3	11
田富町					4	4	8
須玉町			2	3	2		7
明野村	2	4			1		7
富士吉田市			2	3	1	1	7
韮崎市	2			1	2	2	7
長坂町				2	3	2	7
玉穂町			1	2	2	2	7
八代町			2	1	1	3	7
高根町		1	1	2	2		7
都留市			1	2	2	1	6
石和町	2		1			3	6
双葉町	1		1	2			4
昭和町					2	2	4
大月市			1		1	2	4
敷島町		1				3	4
六郷町	3						3
一宮町	1			1	1		3
増穂町				1	1	1	3
豊富村				2		1	3
境川村	1				1	1	3
勝沼町			1	1		1	3
春日居町			2			1	3
中道町	1					2	3
小淵沢町						3	3
武川村	1			1			2
牧丘町	1					1	2
富沢町	1					1	2
河口湖町				1		1	2
身延町				1			1
早川町	1						1
南部町	1						1
下部町				1			1
上九一色村				1			1
忍野村						1	1
上野原町						1	1
鰍沢町		1					1
*以下の列の数字は修了者数を示す				延べ修了者数（合計）			260

付表2　修了生の活動歴(1期とII期の比較)

職業経歴等		96年度	97年度	計	%	98年度	99年度	00年度	計	%
内訳	社会教育・女性政策関係	4	6	10	37.0	6	1	4	11	14.9
	教員経験者(含む保育者)	6	4	10	37.0	3	9	7	19	25.7
	上記外の公務員(含む議員)	1	2	3	11.1	0	2	2	4	5.4
	施設・団体職員	0	1	1	3.7	2	7	3	12	16.2
	パート勤務	0	0	0	0.0	0	6	2	8	10.8
	農業・自営業	2	0	2	7.4	5	7	4	16	21.6
	その他	0	0	0	0.0	1	0	0	1	1.4
	なし	1	1	2	7.4	0	2	3	5	6.8
計		13	14	27	100.0	17	32	25	74	100.0

		96年度	97年度	計	%	98年度	99年度	00年度	計	%
女性プラン・女性団体関係者(複数記入あり)		7	12	19	70.4	11	26	16	53	71.6
内訳	女性いきいきアドバイザー	2	0	2	7.4	0	8	3	11	14.9
	プラン準備・策定・推進委員(行政担当も含む)	3	3	6	22.2	5	16	8	29	39.2
	各種女性団体での活動	7	11	18	66.7	10	25	12	47	63.5
計		13	14	27	100.0	17	32	25	74	100.0

		96年度	97年度	計	%	98年度	99年度	00年度	計	%
リーダー経験者		7	10	17	63.0	12	22	17	51	68.9
内訳	女性団体	5	7	12	44.4	9	22	8	39	52.7
	職場・市民団体・サークル他	2	5	7	25.9	7	15	10	32	43.2
計		13	14	27	100.0	17	32	25	74	100.0

その他の活動		96年度	97年度	計	%	98年度	99年度	00年度	計	%
市町村議員・行政委員・審議会委員・相談員等経験者		9	7	16	59.26	7	19	8	34	45.9
ボランティア活動		6	7	13	48.15	7	13	11	31	41.9
趣味・学習等サークル活動		6	9	15	55.56	10	23	16	49	66.2
学習活動		12	12	24	88.89	10	22	14	46	62.2
内訳	女性センターの講座	7	9	16	59.26	7	17	11	35	47.3
	大学の公開講座	12	11	23	85.19	10	20	12	42	56.8
計		13	14	27	100.0	17	32	25	74	100.0

＊百分率は全てI期の回答者数(27)またはII期の回答者数(74)に対する割合。

付表3　受講して自分の考えや行動にどんな変化があったか(自由記述全事例の要約)

1. 自己変革・自己確認(52人)51.5%

1-1. 積極性・自信・挑戦する勇気の獲得(24人)23.8%

性差を超えた自分らしい生き方をしようと思うようになった／何事にも挑戦する勇気が出てきた／自分を変え、人を巻き込むことは難しいが、常に前向きでありたい／堂々と前向きに自信を持ってやって行こうという気持ちになった／今後行動するにあたっての自信がついた／担当事業で(学習したことを参考に)会話劇を取り入れこれまでの形式を変化させたことが自分の自信につながった／学ぶことで自信がつき、目的意識が蓄積されるようになった／自分の中でもやもやしていたものが明確になり、自分が間違っていなかったと確信でき嬉しかった／教えられる側になって自分をふりかえることができた／○自分のものさしの目盛りが伸ばせて、心のあり方が大きく変わり精神的にゆとりがでた／日常生活の中で気張らずにスムーズに自然体で男女共生について実践できるようになった／若くなったような気がする。若い人に負けないよう頑張りたい／いろいろな面でエンパワーメントされ、今までなら考えられないことをやってしまう。積極的にこれからの人生を生きられるような気がする。／○エンパワーメントが少しできた／受身から能動的になれた、積極性がでてきた(2)／○積極的に行動をおこすよう心がける(2)／○やる気を出して目標に向かうことの大切さ(男性)／言行一致の精神をまっとうしようと心に誓った／学習したことを実行に移すこと／どんな事にも責任を持って、最後までやり通す忍耐力を身につけた／○責任を持った行動をしよう／○どんなことからも学び取ろうという姿勢

1-2. 自分の考えを話せるようになった(13人)12.9%

○自分の考えを人に話せるようになった／外に向かって自分の考えを出すようにしている／学習のお蔭でいろいろな場で発言できた／確信を持って意見がいえるようになった／町の役職者の男性に対しても、講座での知識が自信になり、自分の意見を発言できるようになった。今後も発言を続けたい／大勢の中でも発言することがこわくなくなった／男性とも気軽に語れるようになった／積極的な発言が可能になった／自分の考えを率直に表現し、行動できるようになった／今までは女性として控え目に振る舞うことを美徳としていたが、地域の会合に積極的に参加、発言を遠慮なくできるような姿勢に自然になった／これまでは周囲に遠慮した言動が多かったが、多くの仲間たちの言動に刺激されもっとどしどし発言していこうと思った／自分自身の考えを声に出して発することの大切さ／先輩の人にも同じ受講生として接し、自分の考えを伝えることができた

1-3. 学習意欲のいっそうの高まり(9人)8.9%

自分自身を磨きたい、知識を身につけたいと思うようになり、学習意欲がわいた／ライフワークである教育について一層の研究意欲がわいた(男性)／○自分の力をつけるためもっと学びつづけたい／もう一度学びたいと思った(2)／○新しいことの先取りができた／○本を読むようになり、新聞の文化欄や社会面を読むようになった／テレビや新聞等の興味内容が変わった／自分のまわりの一つ一つに目を向けるようになった／視野が広くなった

1-4. 同じ気持ち・考えの人の存在を知ることによる励まし・勇気、共同作業による喜びの体験や自信(7人)6.9%

多くの女性がいろいろな形でアクションをおこしていることを知り嬉しく思った／多くの仲間がいることを実感でき、勇気づけられた/同志に巡り合えて目の前が明るくなった(3)／学校現場以外にも同じ気持ちで活動している方々が大勢いることを知り、ともに活動でき、成果を教育現場で実践できたことが大きな喜び／大勢の力が集約されて物事が出来上がることの楽しさを体験／1人では自信がなくとも何人かの人が集まって行動すれば必ずできる自信を得た(何かの形であらわすことは初めての経験で楽しかった)

2. ジェンダー問題に関する意識の深まり(26人)25.7%

○家庭や地域でのジェンダーや性差別が目につくようになった(2)／○男女共同作業のとき、自律か他律かを内省するようになった(男性)／何気なく使っていた言葉に注意するようになった/言葉を選んで使うようになった(2)／この部分は男女平等でなくては、という箇所が自分の中で増えた／ジェンダー・フリーで物事を考えるようになった／同じ光景を見ていても今まで何も気づかなかったことを、女性の側の視点から見ての問題点に気づいた(無尽会に出ても、女性の視点で感想を述べている自分に苦笑)(男性)／学習により男のエゴをつくづく考えさせられ、積極的にジェンダー・フリーの社会づくりを推進してゆこうと思うようになっ

た(男性)／○人権尊重を基本に物事を考えるようになった／○男女共同参画社会づくりが必要だと思うようになった／ジェンダーということばの意味が深く理解でき、人に対しても納得のいく説明ができるようになった／性別にとらわれず、個性を認め合い、助け合っていくのがいいと思うようになった／○過去の日本の『男尊女卑』を恥ずかしいことと思った(男性)／行動を起こさなければと強く感じた／○男女共同参画について、総合行政という見地からの取組みの必要性を実感(男性・社会教育担当)／○女性の自覚と行動が地域や国を変える原動力になることを実感／女性自身が力をつけ人格を磨くことの大切さ/自立と自己確立の大切さ(2)／○まず自分自身が変わろうと意識改革できた(2)／みんなで勉強していかないと社会は変わらない(一部の同じ人が深く勉強しても駄目)／男女共同参画は学ばないと理解できないし、運動していけないことを実感／(自分と違う角度からの提案を聞く事ができ)郡内だけの活動で満足していられないと思った／今までは自分の問題だけ解決すればいいと思っていたが、男女共同参画社会の実現には底辺の揺さぶりが必要で積極的に外へ出て行こうと思った／もっと深く勉強して知識を身につけた上で行動に入っていかねばと思った

3. 人との関係における変化(17人)16.8%

3-1. 他の人々へのまなざしの変化(11人)10.9%

○共感性の巾が広がった(男性)／様々な方と出会い、各々の生き方の中から思いや意識を知り、人の見方が変わった／多様な生き方、考え方があることを知り、他人に対しても幅広く考えられるようになった／多くの方々にめぐり逢え、自分と違う角度からの提案を聞く事ができ、考えや行動に幅が出来た／グループ活動の中で、相手の人の考えや言い分をじっくり聞くことの大切さと努力の必要を学んだ／男性の考え方を理解したいと心配りをするようになった／ネットワークでの活動に広がりが出た／地域とのかかわりを重要に思うようになった(今後少しずつでも働きかけをしていかなければと考えている)／人脈が広くなった／調査を依頼される側の立場をもっと考えればよかった(無意識に自分サイドに考えすぎた)／新規転入者は地域の旧習を批判しがちだが、いろいろな市町村から集まった方々とのふれあいによって、町や県に対する見方に余裕が出て『心が広く』なった

3-2. 夫・家族との関係の変化(6人)5.9%

女性だからといつも夫より自分を下に置いてきたが、夫と平等だというように考えが変わった／夫との家庭内の仕事の分担／ホームヘルパーの勉強に通う間、夫も父も男女共生だった／これまでは周囲に気遣い遠慮していたが、今はどしどし家の事は協力してもらい外に出かけている／今までは家事は自分の仕事と決め付けて、夫が手伝ってくれると申し訳ない気がしてすぐ手を出していたが、今では感謝しながらも手伝ってもらっている／家計も夫任せだったが、少しは聞いてみようと思う

4. 地域における発信・実践の努力(19人)18.8%

○学習成果を家族や隣近所の人に話し、資料を配布／○他の人に学習を勧める(2)／男女共生について無尽会や趣味の会で話す事が多くなった／出来るだけ多くの人と男女共同参画について話をしている／男女共同参画社会の実現がいかに大切か、まわりのひとにわかりやすいことばで話せるようになった／紙芝居の作成により誰にも分かりやすく説明する方法を知ることができた／参加型学習の取り込みなど、啓発活動へのヒントを得た／女性プランの位置づけや方向づけができた／今後の活動方針が明確になった／プランの推進運動に講座のメモや資料を役立てたい／○男女共同参画プランの推進に積極的に関わっている／○生涯学習講座で女性の意識改革や政治経済もテーマにするよう要望／(教育委員として)町の担当者に助言、男女共同参画問題の理解が進むよう応援／地域を変えるために自ら踏み出す決断(町会議員立候補)／○学習していたからこそ地域のリーダーとして活動ができた／○あらゆる機会を通じて多くの行事に参加していくようにしている／○職場の同僚の意識改革に努めるようになった／○男女共生社会に向けて中心になって活動していきたい／自分のしてきたことの方向性を確信でき、積極的な取組みに着手するよう心がける(でも挫折感も)

複数回答を含む。　○：Ⅰ期修了生、それ以外は2期修了生。
(　)の中の数字は同様の記述数、男性と特記してある以外は女性の記述。

付表4　講座のテーマに関連した受講後の活動(2000年11月まで)

1. 自分自身のキャリアの蓄積(29人)28.7%

1-1. 資格取得、再就業、起業にチャレンジ(7人)6.9%

女性起業の足がかりとして朝市を開催／村の特産物加工に仲間と精を出している／21世紀職業財団に入所(働く女性の力になれるよう)、雇用管理アドバイザー／代替教員として働く／送迎ボランティアの利用者に安心してもらえるよう、2級ホームヘルパーの資格取得／山梨県健康生きがいづくりアドバイザーの資格取得、活動中／再就職のための資格取得に挑戦

1-2. 学習の継続(各種講座、視察・研修など)20人(19.8%)

学習の継続、積極的参加(9)／男女共同参画に関する学習の場に参加するようなおいっそう努力／日本婦人会議の中で人権問題についての学習を重ねている／女性学級の中で、地域の女性とともに女性の自立について機会あるごとに話し合っている／男女共生カレッジやまなし受講(4)／情報を掴んであらゆる学習の場に臨む／ニューヨーク2000年会議への出席(2)／他地域のプラン推進イベントにも参加するよう心がけている／総理府の男女共同参画ヤングリーダー会議に参加／パソコンスクールに通っている、シニアパソコン教室／自分の表現力不足を痛感、コミュニケーションの訓練をしたい／上野千鶴子などの著書を読み、活躍を気にするようになった／自分自身の意識改革に努力するようになり、地球規模で考えるようになった

1-3. 地域での活動への参加(10人)9.9%

自治会活動の積極的参加(2)／体協で太極拳の指導を始めた／ボランティア活動の開始(2)／図書館ボランティアに参加、男女共生の絵本などを読み聞かせに取り入れていきたい／町国際交流グループに参画／エコネットワークの活動／志明日会入会／山梨布の絵本の会入会、年下の方のパワーと行動力に感動

2. 夫婦関係の変革(13人)12.9%

自分の家庭での役割分担の変化(男性)／感謝のことば、気づいたことは進んでするなどの申し合わせをし、夫婦連れ立っての外出などふれあいの風土を相互につくっている(男性)／家事への積極参加(男性)(掃除、食事作り、後片付け、買い物、ゴミ出し、その他こまごました支払いなど全て)／家庭内での役割分担、夫婦二人暮し、思いやりと助け合いで生活している／全部とはいえないが、夫の家事分担も一部定着してきた／家事を夫と分担／家事・育児を夫にも分担してもらう／夫の家事分担が増えた(洗濯、朝食つくり、お弁当、ゴミ出し、ガレ・有価物)／夫が食事の片付け、身支度など、自分のことは自分でするようになった／長い習慣で気づかない夫に話をして、変わるように努力／夫が家庭内の細かいこと、台所の仕事も、状況を見ながらよく手伝ってくれるようになった／夫と一緒に講演会に出席(2)

3. 地域への発信と参画のための活動(68人)67.3%

3-1. グループづくり、ネットワークづくり(45人)44.6%

敷島ライオネスクラブを結成、児童館を拠点に子育て支援サークルを開設し活動／女性いきいきアドバイザー(OGも)の東部富士北麓いきいきネットワークを作る／町内の施設に女性の集会場を作るための賛同者づくり／地域の女性たちと地域の一画の花づくりを通して交流し、地域のことを話し合っている／町の女性団体のネットワーク作りに挑戦中／都留女性会議の発足と運営／本講座修了者グループでの学習や活動(39名、7グループ)

3-2. 周囲の人々への啓発、働きかけ(27人)26.7%

＜身近な人々、グループ活動の場で＞(14件)

周囲への啓発(7)／ジェンダーについての本を若いお母さんたちに持ち回りで見るようにした／孫のことでジェンダーについてお嫁さんとよく話をしている／自分の発言、おしゃべりに男女共同参画に関する内容あり(ボランティア活動や生協活動の際に)そういう漣のような動きが広く深くなることによって、大勢の人達が理解していくようになる／「男女共同参画」という言葉に慣れてもらうよう努力したい、自然に「どういうこと？」と関心を持つ人が増えると思うから。自分の知識のレベルで底辺を広げていきたい／町の女性団体に講座の紹介と受講の誘い／地域の仲間に、学習したことを話し、話し合いをする(特に女性と選挙)／学習講座の仲間への啓発／基本法、世界国会議員ランキング、世界ジェンダーランキング、県内プラン策定状況などをあちこちで配布

＜自治会活動の場で＞(6件)
文化祭、運動会などの地区行事に女性の実行委員を入れてもらうように話し、女性も参画することができた(女性団体の役員以外の人も参画)／自治会における女性の活動の幅を広げる／区会に夫婦で参加できるよう働きかけた、ジェンダーの学習会を兼ねた区会にも参加／公民館だよりに投稿／地区文化祭で「甲府市女性プラン」を掲示し、プランを配りながら説明／公民館活動での発表
＜自分の仕事に関わって＞(8件)
職場の意識改革／職場などで学習したことを報告し、まわりの男性にそれとなく話をして、女性の地位向上に努めている。お茶くみも当たり前にやるのではなく、状況を見ながらしている／自分が計画する各種団体等での啓発活動(男性・社会教育関係者)／自治体などの集会の折にふれ、学習したことを話す機会を持つようにしている／現在図書館の係なので、エログロ的な週刊誌を女性に対する偏見のない雑誌に変更、男女共同参画に関する本を購入(教員)／生徒に学習した資料を見せている(教員)／甲府市ファミリーサポートセンターのアドバイザーとして、意識改革のアドバイス／保護者にジェンダー・フリー紙芝居を見せ、啓発活動(教員)／ジェンダー・フリー紙芝居を議員の研修会で披露(議員)
＜若い人の支援など＞(3件)
若い活動家を支援したい／後継者を作ることに努力する／自分が行動することで他の方々の自覚を促す(モデルとしての自分の行動)

3-3. 市町村男女共同参画プランの策定・推進活動(27人)26.7%

町プランの推進委員の公募に応募し、委員として活動(2)／都留市男女共同参画推進委員に応募し、委員として活動／策定委員としてプランの作成に力を注いでいる／町への策定の働きかけから策定・推進へと関わる／石和町ホップステップジャンプ(男女共同参画)プランの推進(地域への出前講座を実施、条例作り、オンブズパースン制度の検討、男女共同参画都市宣言などの具体化を進行中)(2)／しきしま女性輝きプランの策定・推進／女性プラン推進委員を務めている(3)／市の女性プラン推進委員会の会長として仕事／男女共同参画推進委員長として啓発パンフの作成、出前講座の実施など啓発活動に力を入れている／長坂町男女共同参画推進プラン策定委員会を発足、広報「ながさか」にシリーズ「男と女のパートナーシップ講座」連載、視察研修、アンケート実施、新座はんさむウーマンネットワークのパフォーマンス招待(3)／韮崎市ヒューマンフォーラムでパフォーマンスを行うことを提案、推進委員全員で寸劇を行い好評／町の文化祭で推進委員によるパフォーマンスを発表、町のCATV、広報に「プラン」の枠を設けてもらった／河口湖町女性プラン推進委員会で出前講座を開催、ぴゅあ富士フェスティバルでプラン委員、町長以下町執行部が一緒に学ぶ／他地域との交流、河口湖町のプランづくりに学ぶため、訪問交流／田富町女性プラン策定委員で新座市へ視察／推進委員会を発足(行政担当)／行政担当者としての関わり (3)／女性プランの委員に応募してみようと思っている(2)

3-4.「男女共同参画」関連の各種講座・研修・イベントなどの企画・運営(21人)20.8%

第4回世界女性会議の参加メンバーとして女性センターで市民企画のワークショップを開催／甲府市女性市民会議OG会として、女性センター初の市民企画講座を実施(2)／甲府市民のつどいで集会を企画実施、女性センターの市民企画講座を自主企画、県退婦教の三者合同学習会や母女の会の研修会を企画実施／東部富士北麓いきいきアドバイザーのネットワークで文部省の補助事業を実施(3)／峡南女性センターフェスティバルで企画プログラムのリーダーを任せられ、本講座のグループ研究でインタビューした女性区長を招いた／ぴゅあ峡南フェスティバルの実行委員に公募者の一員として参加／富士女性センターにて市民企画講座「女性の社会参画」を企画実施／地元女性団体で男女共同参画都市宣言一周年記念行事にパフォーマンスを取り入れ好評(受講で学んだ事を地元女性団体に持ち帰り、取り入れている)／町の公民館での男女共同参画の講演会の企画と司会(ジェンダー・フリー紙芝居を5地区の住民に演じてもらい、参加型にして成功だった)／りゅうおう女性の会として、自主企画による座談会の実施(自治会連合会長、女性いきいきアドバイザー、町教育委員など、今年度修了者によるジェンダー・フリー紙芝居)(自治会活動に焦点)(2)／南都留地域「男女共生を進める県民のつどい」を各地域の女性いきいきアドバイザーが中心となり開催／いきいきアドバイザーとして富士吉田女連協に参加し、基本法についての勉強会や講師を招いての講演会を開催／県退婦教甲府支部として男女共同参画の精神を広めるための学習会を企画運営／市川房枝記念会訪問、JA女性部で小淵沢へ研修実施／千塚地区「女性の生き方を考えるつどい」を企画、自治会連合会、愛育会、食生活改善推進会に働きかけ、講演会を開催／村のいきがい講座で男女共生のための講座を開催してもらった／地域活動の中で、学習会の推進

3-5. 講座やイベントでの発信者になる(発表、パネリスト、講師など)(14人)13.9%

女性センターなどでプラン策定についての発表(女性いきいきアドバイザー)／しきしま女性輝きプランの手作りアンケートの状況を女性センター、町村、東山梨・東八代のいきいきアドバイザーの会、峡中女性団体などで発表／女性センターで海外研修の発表／峡南女性センターにてプランの推進策定状況について発表／男女共同参画アドバイザー養成講座でパネリスト／西八代婦連協大会でのパネリスト(男性)／県女連協主催のシンポジウムのシンポジスト／東山梨地区「男女共生を進める県民のつどい」でパネリスト／りゅうおう女性の会の事業として開いた座談会で、いきいきアドバイザーとして発言、昨年度の講座のグループ研究の成果を資料とすることができた／ことぶき勧学院で男女平等、少子化対策のPR(男性)／県教育研究集会自立と共生分科会で講座の研究成果とそれをもとにした学校での実践を発表／男女共同参画社会の基礎づくりについて、教員対象の研究会、講座で講義／甲府市中条自治会の要請で中条公民館の落成と「女性の家」の開設を記念しての女性部会員と座談会(甲府市女性政策係長)／短大生に男女共同参画について話し、全国女性会議の様子を報告

3-6. 行政への提案、提言、働きかけ(14人)13.9%

地区公民館での社会教育の場で「男女共同参画社会づくり」についての学習会を持つよう提案／男女共同参画関連講座を町の社会教育関係学習企画に位置づけるよう強力に提言／町の総合計画の中に「男女共同参画の町づくり」を入れるよう提言／男女共同参画の講演会を要望／県の「提言のひろば」に応募(7)／町への提言をする／県政モニターとして様々な提言／議会の一般質問で、各審議会委員の一般公募について出したい／町女性会議の開催にあたり、社会教育委員に学習成果(ジェンダー・フリーについて)を還元

3-7. 政治参画に関わる活動(12人)11.9%

＜立候補＞(3件)3.0%(当選3)

模擬議会開催など仲間づくりをしながら統一地方選への立候補をよびかけ、結局自分が立候補して当選、女性議員誕生の夢を果たす。現在広報委員長として町議会便りの発行に努力／町議会議員に立候補、当選、水を得た魚のごとく楽しんでいる(4度目の挑戦)／13年4月改選の町議会議員に立候補の予定(隣組に表明)(その後当選)

＜学習、支援、組織づくり＞(4件)4.0%

都留市に女性議員を誕生させる会を発足、運営／次期町議選に女性を擁立する会を発足の予定／女性議員を送り出す運動の中心となった／市川房枝記念会に入会、学習会に参加

＜女性議会への参加、企画の取組み＞(5件)5.0%

一日女性県議会に参加、副議長を経験／女性県議会に公募で参加、委員会副委員長をした／町の女性議会開催を企画し取り組んだ／市の女性議会に議員として参加／県女性議会、町女性議会に参加し質問者となる

3-8. 県市町村の審議会等の委員等になる(5人)5.0%

町エンゼルプラン推進委員長／県幸住県長期計画審議委員となる／女性いきいきアドバイザーになる／村教育委員になった／「やまなし青年チャレンジ2000」(県青少年団体協議会)の運営スタッフになった(これからおとなになる人にジェンダー・フリーを伝えたい)